



# 川相商事株式会社



## ● 会社概要

川相商事株式会社は、1947（昭和22）年の創業で、家電製品の梱包事業からスタートし、倉庫、物流業務から家電の組立へと発展され、今日の製造アウトソーシングへのノウハウを積み上げられ、従業員は、約340名の会社です。

平成30年には、滋賀支社が「障害者雇用優良事業所」として知事表彰を受賞され、令和3年には、厚生労働大臣の障害者雇用に関する優良な中小事業主に対する認定制度「もにす認定」も受けられています。

今年度、当協会の「障害者雇用優良事業所表彰」を受けられ、事業定義を「働く喜びを感じる人を創る」とされていて、現場リーダーなどの人材育成にも努められています。

本社は門真市ですが、某電機メーカーの請負業者として滋賀支社を開設し、主として障害者雇用の勤務地となっており、具体的な取り組みなどを人材育成部 次長 宮脇 和孝氏にお話を伺いました。



次長 宮脇 和孝氏

## ● 障害者雇用状況

当初から障害者手帳所持者が在籍、法定雇用率を達成しており、現在も継続しているとのことでした。

特に、2013年頃からは、障害者雇用に積極的に進められた結果、令和4年6月には、8.68%という高い雇用率となっています。

あらゆる障害種別の障害者（24人）を雇用されていますが、特に、知的障害者（14人）、精神障害者（6人）を多く雇用されていることが特徴的です。

個々の障害特性を現場管理社員も含め社員の共通認識として持つための社内研修の充実を図り、障害者雇用の理解と促進を進める傍ら、毎年見学者やセミナーの受入れなど、養成事業にも協力をされています。

また、長年、就労支援機関で障害者の面談や相談をされていた、経験豊富なジョブコーチの定年退職を機会に採用され、企業内ジョブコーチとして配置し、障害者の精神面、健康面の悩み相談にも素早く対応され、雇用の定着を図られています。

採用に当たって当初は、どのような方法で行うのかも不明確で、「湖南地域障害者働き・暮らし応援センター」への相談や、障害者職業センター、障害者雇用支援センターの見学などを行うことから始め、職場体験実習（1週間を基本として、個人により、1～3回程度）を受入れることを進められました。

現在では、主に、就労移行支援事業所や特別支援学校からの見学や実習を受入れ、障害特性を見極めながらジョブコーチの意見なども取り入れ、長く勤務ができるような職場配置に心掛けているとのことでした。

#### 障害者 雇用者数

年度	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
雇用者数	2名	4名	7名	10名	14名	15名	19名	22名	22名

### ●業務について

すべて請負先企業からの製品、部品などを扱っており、組立ライン・検査・物流・部品供給・マシンオペレーターなどの業務があります。

特に製造工程では、1日中立ち仕事となり、かなりハードな作業となることから、勤務時間を短縮したり、1週間の勤務日数を少なくするなど配慮を行い、特性や適性をみながら進めているとのことでした。

主な製品として、エアコン室内機、冷蔵庫、ベアリング、交通安全関係（ガードレール、標識ポール）などの部品組立作業があるとのことでした。



作業風景 I



作業風景 II

## ●定着のポイント

会社の方針として、企業内ジョブコーチを講師として、「障害者雇用の意義」、「障害とは」、「障害者とのかかわり方」などの社員研修や現場管理者の養成が行われています。

作業現場においては、一つのラインをチーム化して、障害者、健常者にかかわりなく、お互いがカバーし合えるような「安心して働けるチームづくり」を心掛けられています。

一方、企業内ジョブコーチの働きは大きく、障害者個々には、いつでも、相談ができる体制として、各現場へ赴き、顔（表情）から調子の良し悪しを確認し、必要に応じた声掛けや個別相談を行うとともに、責任者に連絡をするなど、早期に対応できる体制が取られています。

また、日々、日誌を通してコメントのやり取りをすることにより、ぬくもりのあるかわりを保ち、ストレス・不安等の解消にも努められています。

通勤面においては、最寄り駅（山科・草津・南草津）からの送迎を行い、通勤面の軽減を図るなどの配慮がされていました。

## ●企業へのアドバイス

まずは、会社、現場において、障害者に対する理解を得ることが大切であるとのことです。

「障害者雇用」を難しくとらえるのではなく、とにかく支援機関等への相談と併せ、職場実習などを受入れることにより就労している様子を見ると「障害者」に対するイメージも変わるのではないかとのことです。

当初、障害者を採用するにあたり社内では、「最初は、誰もが障害者にはライン作業は出来ないだろう」との思いがありましたが、実際に、パートさんが通常1日800個を仕上げる作業を試してもらうと、最初は200～300個だったものが、3か月後には、1,000個を超えて出来るようになり、「どのような仕事にも合う人がいる」との驚きとともに考え方も変り、今では、障害者の受入れについても、現場からの要請で行うようになったとの事例を挙げて頂きました。

そして、生活支援や就業支援、家族との連携が大事であること。

お互いの情報を共有することが安心して働ける環境になるとのことでした。

「障害者雇用は、必ずできます」との力強いお言葉でした。

## ●訪問を終えて

当日は、お忙しいところ、丁寧なご対応を戴き、お話をお伺いすることができました。心より厚くお礼申し上げます。

現状では、主に滋賀支社での障害者雇用となっておりますが、将来的には、本社でも雇用を検討されているとお聴きしたところです。

障害者個々に合わせた職場環境とされ、清潔で静かな作業風景も見学させて頂きました。

ラインの中では、健常者、障害者の判断が出来ないくらいにチームワークが取れ、スムーズな作業をされており、今後の雇用促進を図るうえで大事な要素が全て行われていました。

